
シンポジウム 8

アンドロロジー ; Next 10 Years

司 会 白 石 晃 司 (山 口 大)
上 原 慎 也 (川崎医大総合医療センター)
演 者 杉 山 星 哲 (川崎医大)
大豆本 圭 (徳 島 大)
富 永 悠 介 (岡 山 大)
岡 真太郎 (山 口 大)

司会のことば

2022 年 4 月から、AZF 検査や精巣内精子採取術 (TESE) およびホスホジエステラーゼ 5 阻害剤 (PDE5 阻害剤) やクロミフェンなどの内服薬なども保険適用となり、女性側も含め男性不妊診療も大きく様変わりしました。泌尿器科に対する社会的期待が高まる中、専門家のみによる診療ではなく、すべての泌尿器科医が生殖医療についての知識と技術を継続的にアップデートしていく必要性に迫られています。Next 10 Years に関するシンポジウムにおいて、藤本会長がアンドロロジー領域に注目されたことは非常にタイムリーであり、参加者および本稿をご覧の先生方には非常に教育的な内容となりました。

杉山星哲先生 (川崎医大) には精索静脈瘤のアップデートとして、川崎医大での顕微鏡下精索静脈瘤手術の適応や手術手技および成績についてまとめていただきました。以前は精液検査所見の改善や体外受精や顕微授精などの補助生殖医療技術 (ART) を用いない妊娠が手術成功のエンドポイントとして捉えられていましたが、近年、精索静脈瘤手術により ART の成績も改善しうる報告をレビューしていただき、手術適応のパラダイムシフトが生じていることを解説していただきました。

大豆本 圭先生 (徳島大学) には最も難治性の男性不妊である非閉塞性無精子症 (NOA) に対する、顕微鏡下精巣内精子採取術 (micro-TESE) の立ち上げから、その成績について報告していただきました。今までは自

由診療にてとかく個人クリニックで micro-TESE が施行され、そのまま女性側に顕微授精 (ICSI) が施行されていきました。国立大学病院にて産婦人科との密な協力のもと、NOA 診療に携わられている典型的なロールモデルのご施設であると感じざるをえません。

富永悠介先生 (岡山大学) には最近増加傾向にある、性機能障害による男性不妊について、その診療のコツをご発表いただきました。PDE5 阻害剤が勃起障害を伴う男性不妊症に対し保険適応となりましたが、女性側の不妊治療の証明や処方錠数の制限を厳守した上での処方が必要とされるなど、私たちが理解しておかないといけない実践的な内容にも言及されています。

岡 真太郎先生 (山口大学) には、Leydig 細胞におけるストレス応答とテストステロン分泌制御について解説いただきました。臨床研究の進歩は基礎実験の土台があって成り立つことは自明であり、アンドロロジー関連の基礎実験の 1 例として紹介していただき、この分野のベーシックリサーチを志す若手泌尿器科医の motivation を賦活する内容となりました。

泌尿器科医において生殖医療はサブスペシャリティーの中でも非常に専門性が高い分野と捉えられていますが、潜在的な男性不妊症例数は莫大な数であることを考慮すれば、男性不妊は泌尿器科において common disease になる可能性を大いに秘めています。本学会が泌尿器科医にとっての生殖医療診療の研鑽の場となることを祈っております。